

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春の香りを楽しもう

松本美千代(千葉市)

日 時:2022年4月17日(日)10時30分~12時 天気:晴れ時々曇り

参加者:23名(大人8名、子ども15名)

担当指導員:岡田敬 戸村 松本

コロナと悪天候で開催中止が続いていた大草観察会だった。感染予防のため、密にならないように保全課の方でグループ分けをして参加人数の調整してくれている。受付した参加者が開口一番「当たって嬉しい!」と言っていた。この家族はテーマを選んでの参加でなかったようだ。テーマが『春の香り・・・』だったが、参加者の多くはしっかりと網と虫かごを用意していた。1週間前の下見で、テーマは『香り』だけれどこの時期の花や新芽・虫たちの紹介もしようと話し合っていたので準備はOKだった。

観察場所を以下の3か所に分けた。

① 広場での香り物(ヨモギ・ノビル・フキ・キュウリグサ)

② 竹林・元杉林での香り物(ミツバ・チャノキ)

③ 林縁・畔での香り物(ショウブ・ヤブニッケイ・ウワミズザクラ・ウコギ・サンショウ)

後でチェックしてもらえるように、下見でみられた花や虫も付け加えた用紙を用意した。ちぎって匂いを嗅いだりする、フキ・セリ・ノビル・新芽がふわふわのシロダモの枝・ウワミズザクラの蕾・大島桜の葉の塩漬け(桜餅の香りがする)・ゴマギ(ゴマの香りがする)は担当者が家から持ってきてくれた。これらは朝の下見で説明する場所に置いてきた。ショウブは東邦大田んぼ会の伊藤さんに採っていただいて道脇に置き、帰りにみてもらうようにした。(匂いが特に強く残るため他の物の匂いがわらなくなるので。)

広場から中に入るとすぐに、落ち葉の下にいたトラフババヤスデを一人の子どもが見つける。それから、我も我もと子ども達の虫探しが始まった。ヒシバッター・オトシブミ(アシナガオトシブミ)・コメツキムシの幼虫・道に落ちていたシュレーゲルアオガエルの卵塊(戻したが・・・)・7本脚のザトウムシ・ベニカミキリ・ツタ葉上の字描き虫・トホシテントウの蛹・ナナホシテントウなどを見つけた。目線が低いので大人の気づかないものまで見えるようだ。

